

地域の 子育て サポーター

— 各地域で活動する76人の
母子保健推進員 —



会長 かみのだ あゆみ さん(53)
神之田 歩美 さん(53)

声掛けが大事

母子保健推進員は、小さな子どもを育てる家庭と行政を結ぶパイプ役。子どもの健診のお知らせなどを届けています。会長の神之田さんによると、活動はこれだけではないと言います。「地域の中での声掛けも大事。お散歩や行事などで見掛けるとよく声を掛けます。買い物中にも子どもが泣き出して困っているお母さんに『子どもを見ておくから、袋に詰めなっ

せ』と話しかけることも。おせっかいですが(笑)」。神之田さん自身、学校評議員や地区の

婦人会長も担い、近所の子どもにもよく注意するそう。「うるさいおばちゃんと思われるのでしょね。」と笑います。

推進員は活動のために研修も受講。昨年受けた慈恵病院の蓮田健^{はすたけ}理事長の講演は印象深かったと言います。親が過干渉でいい子ちゃんになりすぎた子どもが、全て受け身になり、望まない妊娠で誰にも言えずに出産。子どもをあやめてしまう例も増えているそう。

「それを、どうやったら事前
に防げるかですね。お母さんは
きれいにしても子どもの服
装がぼろぼろだったり、目を合
わせなかったりと気になる家族
を見掛けることもあります。が、

私たちが地域で目を配って声掛けをしていくことが大事なのだと思います。」と話します。

通り一遍ではない子育て

神之田さんには4人の子どもがいて、長男・次男や遊びに来たその友だちにも妹や弟の世話をしてもらっていたそう。

「赤ちゃんの成育を学ぶ生きた性教育です。でも、今はそうはいかないところも多いはず。一人っ子も増える中、大人になって初めて本物の赤ちゃんを世話する人も少なからずいます。」

本を読んで準備をしていますが、子育てにはその通りにいかないことも多いと言います。「夕方

には特に何もなくても急に泣き出します。夕暮れ時母親が構えない時間が習慣づくと、寂しくなるよう。」と神之田さん。「24時間面倒を見なくちゃいけないから、時には手抜きも必要。たとえ部屋が散らかっていても、赤ちゃんが寝たときは一緒に寝ちゃってもいいんです。困ったことがあれば私たち母子保健推進員にいろいろ尋ねてほしいですね。」と話します。

他にこんなサポーターも

民生委員・児童委員

主任児童委員
林田 恵美子 さん



地域で身近な相談相手となってくれる民生委員・児童委員。その中でも、子どもや子育て専門の主任児童委員、林田さんに話を聞きました。

相談しやすい場所に相談を

私たちは、市や学校などと協力して、地域で悩みを抱えている保護者や子どもの支援をしています。

子どものことで困っている家庭へ朝から声掛けをしたこともありました。相談を受けるときは、話を聞く姿勢と寄り添う支援を心掛けています。

子どもとの関わり方などで悩む人は多いと思います。どこに相談すべきか分からないときは、まずは話しやすい場所に相談をしてほしいです。その中で、身近にいる私たちも選択肢の一つになればと思います。



民生委員・児童委員で児童の登校を見守り

voice

何でも相談できる 心強い地域のお母さん

荒尾市から来た私にとって、神之田さんはとても頼りがいがある。地域のお母さんの存在。初めは地域に入るときに不安がありましたが、おいでおいでと声を掛けてくれたり、子どもが同世代の近所のママ友を紹介してくれたりしてくれました。花を保育園に入れるときも、制服のお世話をしてもらったり、困ったことがあれば何でも聞いています。



松影 ともみ さん(30)
はな さん(9) ちか さん(7カ月) ふく さん(7)